

生ごみを減らすことはもちろん、資源ごみ保管庫の活用や、「3010運動」など、ごみを減らすためにできることはたくさんあります。町全体のごみを減量していくには、皆さんの一人一人の協力が必要です。多くの人が減量・分別の取り組みを行えば、大きな成果になります。

ごみの減量・分別にご協力をお願いします。

みんなでごみを減らそう！

家庭で大切な食べ物を無駄なく消費し、食品ロスを削減できれば、ごみの量を減らせるだけでなく、無駄な買い物が減り、家計にとってもメリットがあります。食品ロスを減らすことは、ごみ全体の量を減らすことにつながり、町のごみ処理費用も減らすことができます。また、無駄に燃料も燃やすこともなくなり、二酸化炭素の削減にもつながります。

食品ロスを減らせれば…



もったいない!! 『食品ロス』を減らそう!

毎日の食事や買い物のなかで、食べきれず捨てられるもの、まだ食べられるのに廃棄されているもの、いわゆる『食品ロス』が全国的な問題になっています。

『食品ロス』を防ぐために、私たち一人一人が今できることを考えてみませんか。

買すぎない、余らせない、食品の無駄をなくそう!



あれもこれもつい買すぎて冷蔵庫の中が、ぎっしりという人も多いのではないのでしょうか。

しかし、買った食べ物を余らせて捨ててしまうことはいけません。消費期限が切れてしまったり、食べ残してしまったり、もったいないことをした経験がありませんか。

「食品ロス」とは、まだ食べられる食品が捨てられてしまうことです。主に食品関係の事業者や、家庭から出ています。国の調査によると、年間で2800万トンの食品廃棄物があります。そのうち、食品ロスは632万トンで、全体の約23%を占めています。平均すると一人当たり1日に136gの食品ロスがあり、これはお茶碗1杯分に相当します。毎日これだけの食品を捨てていると考えれば、いかに無駄が多いかが分かります。

「雑がみ」は、まとめて資源ごみ保管庫へ!!

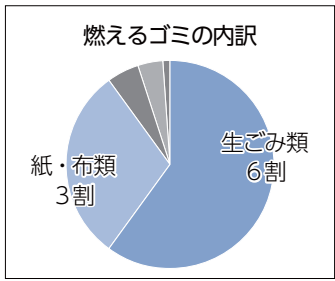
お菓子の空き箱、チラシ、紙袋、包装紙、封筒などの紙類は、「雑がみ」として、まとめて縛る・紙袋などに入れて縛って、お住いの区資源ごみ回収運動として、地域の「資源ごみ保管庫」に出しましょう。



生ごみを減らすための3つのポイント

燃えるごみのおよそ60%が生ごみ類です。水分を多く含む生ごみは燃えにくく、多くの燃料が必要となります。水分や生ごみを減らすことは、燃えるごみの減量化に大きな効果があります。

生ごみの水切りや食べ残しの量を減らしましょう。



宴会の料理を食べきろう! 3010運動

「本日の宴会は、開始30分間と終了前10分間には、自分の席に着いて、料理を残さずに楽しませよう」と、幹事の声かけで宴会が始まります。このような光景が全国で広がり始めています。

●開始30分と終了10分前は料理を食べる

「3010運動」とは、宴会のときの乾杯後30分と宴会終了前の10分間は、自分の席に座って料理を残さずに食べようというシンプルな取り組みです。

職場や各種団体などの宴会では、上司や知人・友人へのあいさつに回ることも多く、宴会の料理に手を出すタイミングを逃がしてしまうこともしばしば。そのまま料理の食べ残しにつながることを解消する取り組みが、この「3010運動」です。



食べ残しが多くなりがちな宴会でも、食品ロスを削減できる工夫があります。

①水切りはしっかりと

生ごみは多くの水分を含み、その水分もごみの重量になります。三角コーナーや水切りネットを利用して、しっかりと水切りをしましょう。



②食べ残しを減らそう

食べられるのに捨てられる食品が多くあります。食品を期限内に使い切るようにすることで、食べ残しをしない習慣を身につけましょう。



③生ごみ処理機補助

生ごみを減量化するため、町では「生ごみ処理機補助制度」を設けています。生ごみを堆肥化して、ごみ減量と資源の有効活用を図りましょう。

